

薬害血友病患者の口腔衛生状態、口腔機能に関する実態調査

研究分担者

高鍋 雄亮 国立国際医療センター・歯科口腔外科

研究協力者

宮本 理香 国立国際医療センター ACC 歯科衛生士

研究要旨

本年度は、薬害 HIV 感染血友病患者における口腔管理の意義を整理し、今後の包括的評価導入の妥当性を検討することを目的とした。本年度は新規データ解析は行わず、厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）における歯科関連研究報告および関連学術文献の体系的整理を実施した。先行研究により HIV 陽性者の歯科医療体制整備は段階的に進展していることが示されているが、HIV 感染血友病患者を対象とした口腔機能低下症に関連した包括的評価研究は確認されなかった。近年、口腔機能低下とフレイルやサルコペニアとの関連が示唆されていることを踏まえ、本集団における機能評価導入の理論的基盤を整理した。本年度は次年度調査実施に向けた準備段階と位置づけられる。

A. 研究目的

薬害 HIV 感染血友病患者の長期療養体制における口腔管理の意義を整理し、従来の歯科医療体制整備中心の研究成果を踏まえつつ、口腔機能低下症に関する評価を導入する研究段階への移行の妥当性を検討することを目的とした。

B. 研究方法

過去の厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）報告書を調査し、HIV 陽性者の歯科医療体制整備、地域連携推進、受診実態、感染対策整備に関する成果を整理した。さらに、HIV 感染者の口腔健康、血友病患者の歯科診療、口腔機能低下症、フレイルおよびサルコペニアとの関連に関する国内外文献を検索し、研究対象および評価指標を整理した。

C. 研究結果

厚労科研の先行研究では、歯科医療ネットワーク構築、受入体制調査、啓発活動、感染対策整備が実施され、拠点病院集中型から地域連携型への転換が提唱されてきた。しかし、これらは主として医療体制整備および感染対策を中心とした検討であり、HIV 感染血友病患者を対象とした口腔機能低下症に関する包括的評価研究は確認されなかった。HIV 感染者では口腔粘膜病変や歯周疾患の有病率が高く、抗レトロウイルス療法と歯周健康との関連も報告されている。また、一般高齢者においては舌圧、咀嚼機能、嚥下機能の低下がフレイルやサルコペニアと関連することが報告されているが、HIV 感染血友病患者を対象とした調査報告は渉猟し得るかぎりなかった。

D. 考 察

薬害 HIV 感染血友病患者は長期療養世代であり、高齢化、関節症進行によるセルフケア困難、慢性炎症状態など複合的背景を有する。近年、口腔機能低下とフレイルおよびサルコペニアとの関連が示唆されており、口腔機能は全身機能の一側面として評価されつつある。本集団においても口腔機能低下症に関する包括的評価を導入することは、全身的健康維持の観点から一定の意義を有すると考えられる。

E. 結 論

本研究は、厚労科研における歯科医療体制整備研究の発展段階として、口腔機能評価を導入する新たな研究フェーズを提示するものである。本年度は理論的基盤を整理し、次年度の包括的調査実施に向けた準備段階と位置づけられる。

F. 健康危険情報

なし

G 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 宮本里香、上村悠、大金美和、池田和子、野崎宏枝、佐々木愛美、鈴木ひとみ、杉野祐子、谷口紅、栗田あさみ、大杉福子、高橋昌也、木村聡太、近藤順子、中本貴人、高鍋雄亮、丸岡豊、潟永博之、HIV 感染血友病患者の抜歯処置に関する課題の検討、第 39 回日本エイズ学会学術集会、2025 年、熊本

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし